

キャリア教育の理論と実践に関する一考察

田村 徳至（信州大学 学術研究院総合人間科学系）

1. 講習の概要

今年度は、昨年度までの教員免許状更新講習のシステムが変更となった。本講座は、昨年度までは必修講座「教育の最新事情」の中の1コマ（60～90分）として開講されていたが、今年度からは独立して選択必修の1つとして開講することとなった。講習内容は前年度までの1～2時間から確認テストまで含めて6時間となった。昨年度までの必修科目の中の1コマの時は年間4～5回実施してきたが、今年度からは独立したこともあり、年間2開のみの開講となったが、かなり充実した内容となった。今年度は8月と11月の2回、松本キャンパスにて実施した。

主な内容としては、午前の最初の1コマ（90分）を田村が、キャリア教育が求められた社会的背景などキャリア教育の概説を行った。講習は毎回パワーポイントを使用した。導入段階では、クイズ形式で邦画のタイトルを考えてもらうことを通じて、文部科学省がキャリア教育を重視していることを理解してもらうこととした。映画の中身としては、①主人公が様々な体験を通して様々な人と出会い、その助力を得つつ、困難を乗り越えて大きく成長していく姿が描かれているもの（アニメ：魔女の宅急便）、②自分の将来を決められない高卒の都会育ちの主人公が田舎暮らしや魅力的な村人に囲まれ成長していく姿が描かれているもの（WOOD JOB！ ウッジョブ）、③主人公が自らの信念に基づき、様々な困難を乗り越えて真実を追究していく姿が描かれているもの（HEARO）を取り上げた。映画ではあるが、児童生徒に対し、ねらいをしっかりと定めて、視聴後のキャリア教育を初めとしたさまざまな学校教育活動に役立てていくことを考えると、これらの映画の活用方法があるのではないかと考える。受講された先生方の正答率は概ね20%であった。魔女の宅急便は主に小学生向け、ウッジョブは主に中学生向け、HEARO は主に高校生向けとして十分活用できる可能性あがると考える。現職の先生方の今後のご努力を期待したい。

また本講座は、受講される先生方の校種が幅広い（小学校～高等学校・特別支援学校）ため、1～2の校種に的を絞った内容とすることが出来ず、全ての校種のキャリア教育の内容を網羅するという形にならざるを得ない。

午前中後半の1コマ（90分）はゲストティーチャーとしてJR東日本長野支社の中村麻紀さんをお招きして、運輸業における仕事内容、女性としてキャリアの積み方、JR東日本が学生の採用にあたって重視していることなどをお話しいただいた。受講された先生方からは、普段見聞する機会がない内容であったこともあり、概ね好評であった。特に、採用に関しては高等学校籍の先生から「採用にあたって求められる最近の若者像」についての質

間があり、就職する生徒が多い高等学校の先生からは評価が高かった。

午後は、ゲストティーチャーとして明るい選挙推進委員会の金井壯太さんをお招きして主権者教育という視点からキャリア教育を見つめ直すという内容で講習を行った。個人ワーク・グループワークを行いながら理解を深めさせる手法を行った。主権者教育とキャリア教育の関係性を把握してもらうことを狙ったが、あまり芳しいものではなかったようである。現職の先生方からすると（特に社会科、公民科の先生方）すでに知っている内容であったり、他教科を専門とする先生方は、主権者教育とキャリア教育の関係性が理解しにくかったようである。

2. 今後の課題

現職の先生方のニーズとして、明日からの授業にすぐに活用することができる知識・技能の取得が第一である。8月と11月にそれぞれ受講された先生方（計70名）のアンケート結果は、本講習の内容・方法についての総合的な評価は3.1ポイント、本講習を受講したあなたの最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価は3.0ポイントであった。よい4点、だいたいよい3点、あまり十分ではない2点、不十分1点の4点に換算して計算した。

事後アンケートの平均得点と自由記述等の内容からすると、本年度の本講習内容は受講された先生方のニーズとはあまり合致しておらず、講習内容が満足いくものではなかったことが推察される。

来年度は、キャリア教育の本質（社会人基礎力やライフキャリアの虹を活用した内容）と各校で抱えているキャリア教育に関する実施上の課題・問題点の解決策に関するグループワークなどを中心に講習内容を組む必要がある。さらに、日本の将来を託す若者を育てるという視点に立ち、キャリア教育における基礎的汎用力²⁾の育成との関係性の解説も行う必要がある。

私もまた、新たな気持ちで教員免許状更新講習に取り組み、受講される先生方のニーズを的確に把握し、“受講して役に立った”“明日の授業への意欲が湧いた”と実感して帰ってもらえるような講習を目指し、少しでも学校現場で役立つ情報を提供できるよう、努力していきたい。

<註>

1) 社会人基礎力

2006年2月に「職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力」として社会人基礎力の概念が生まれた。基礎学力と専門知識などの各要素と重なる部分をもち、さまざまな経験を通して相互に作用しながら、共に成長していくものとして捉えるとよい。